

堂々とドリバフォーステージ1位(暫定)を獲得したマッキー牧原。マシンコントロールの上手さは際立っていた。「みんなおっかなびっくり走っているよね。もっとスピード出して入らなアカン。3速くらいまでのドリフトなら危かないで。今回はタイヤ(520S)がハイグリップ過ぎたんでちょっとしんどかったけど。それに、山が減ってくるとだんだんグリップが良くなってくるんや。だから走るたびに進入速度を上げていった。シヨックはリヤの方がフロントより10%くらい固めかな。ま、40歳過ぎには見えん走りやろ。」

トリアル・牧原道夫



とにかくオーバースピード

なに！サイド引いてからハンドルから両手を離すと！んなことできねーよ！



ピットから出走直前にのむ犬(ご存じいかたのヒーロー)に電話する現地人北原。効果アリ!

圭オフィス・北原慎一

タイヤサイズを間違えなければ、もっとスモークだったのに



急ぎ直前に挑戦するため、携帯電話で、のむ犬からアドバイスを聞きつつ走った北原さん。「ホント、難しいね。ドリフトのうまい人って尊敬しちゃうよ。最初は後ろのシヨックを固めて、途中から柔らかくしたりと、いろいろ試してみたんだ。で、後で気がついたんだけど、リヤのタイヤサイズ、本当は245なのに、255で走ってたんだ。どうりでリヤがよく粘ると思ったよ。あれさえなければ、もっとうまくいったと思うんだけど。」

ブリッツ・金子 豊

サイド引きすぎて、ひじが痛い



必死にサイドを引くが、クルマがセリカGT-FOURだけに、ドリフトはかなり苦しかったようだ。「サイドを引くと、左のひじがバケットシートのサポート部分にあたるんですよ。もう途中からひじが痛くて。オーバースピードで入るとフロントが流れてしまい、サイドを引くとスピンしてしまう。4駆でドリフトは難しいですね。」

サーキットではかなりの速さを見せる二ヤ腐クラソーも、ドリフトには苦しんだ。「今までのステージの中で一番疲れたよ。途中から2駆にして走ってもみだんだけれど、やっぱりダメだね。出口付近でややテールが流れるのが精一杯だよ。こういうのは普段から練習しないと。ボクはグリップ派なんだよ。ま、ここでヘンな癖がつくと、T1でタイムが出ないから。ドリフト専用VX-ROM? うーん、とりあえず発売は延期しましょう。」

レイブロス・元木(代打)

社長に怒られずに済みそー

ハイパワーFRならではの、豪快なパワードリフトが印象的だった。「すごく楽しめましたよ。ドリフトはあまりやったことないんですけど、FRはアクセルワークでイけるから、いいですよ。でも途中で牧原さんに「もっとスピード上げて突っ込まなきゃだめや」って言われてね。これくらいのできなら、社長に怒られないでしょう。良かった、良かった。」



マインズ・新倉通蔵

グリップ走行で目立つ



さすがの腕前！特別参加ゲストの読者代表、切れたドリフトはカッコイイ!

このステージは、模範演技として、ふたりの読者代表にも走ってもらったのだ。180SXの渡辺くん、ハチロクレブの三浦くんは、エビスがホームコースという走り屋。さすがにそのドリフトは素晴らしい、チューナー達も感心することしきりだった。

ハチロクの三浦英之くん(24歳)は、サイドドリフトをほとんどやらない。カムやガスケットなど、エンジンにも多少手が入っている。タイヤはフロント、リヤとも185/60-14のM3だった。「人が見てると緊張しちゃって……」としきりに話していたゾ。



余裕のドリフトを見せる渡辺180SX。



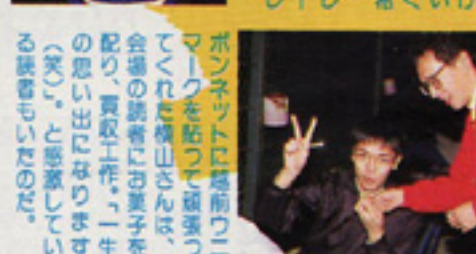
スムーズなドリフトが印象的な三浦ハチロク。



180SXに乗る渡辺広志くん(19歳)。サイドドリフトで、エビスではドリフトばかりしているという。フロントに205/60-15のRE71、リヤは185/70-14の中古タイヤを履く。エンジンはクリーナーと車検対応マフラーくらいで、ブーストもノーマルのままだ。



「フチのかわいいベットのだけど、特別プレゼントや」というわけで、向井さんのシカクを1名様にプレゼント。希望者はハガキに住所、氏名、年齢、職業、希望車を明記して、OPT-ON編集部、1月号奈良土産のシカクに郵送し、11月まで。



ポンネットに燃焼ウニマークを貼って頑張ってくれた横山さんは、会場の読者にお菓子を配り、買収工作。一生の思い出になりました(笑)。と感激している読者もいたのだ。

HKS関西・向井敏之

4駆の中でトップなわええわ〜



セリカGT-FOURと同じく、4駆のランエボは大苦戦。「ダメや〜。サイド引いても、ブレーキ踏んでも止まるだけや。やっぱり4駆はキツいな〜。アクセル開けるとすぐタイヤがグリップするし。それがランエボの利点とも言えるから仕方ないか。でもガンバったから努力貰うくらいしてくれもええやろ。GT-R以外の4駆の中でトップになれば……。えっ、それも嬉しい? あちゃ〜!」

ウニパワーもドリフトには通用せず!



思い立ったがDai稲田ドリフトインプレ4駆ドリフトはFドリフトハッキリ言って、このステージはみんな苦手だったはずだ。ドリフトなんてやったことないよ。というのボク達、オジン・チューナーの本音だ。だってドリフト・ブームってのは最近の話で、オジン時代は、速く走るには「いかにケツを潰さないか」と練習してきたんだからね。

だから、ドリフトができなくても、何がバフォーマンスをやればいいのか、というルールにしたらいい。

なんだ。

ま、ここで頭角を表すのは圭オフィスの北原くんしかない。だって長野の山崎ちゃんも。それともバワーにまかせてマッキーがまく走っていたのが印象的だった。

ボクも初めての4WDセリカを曲げようと、サイドドリフトにアタックした。最初のうちはスピードが足りず、ケツを振ってもアクセルを入れるとフロントが暴動してグリップしてしまっけど、4駆ドリフト



Daiは、サイドのリリースボタンをガムテープで固定してチャレンジしたのだ。

ドリバフォーステージ リザルト

順位	社名	読者採点ポイント
1位	トリアル	9.5
2位	圭オフィス	9.08
3位	レイブロス	7.3
4位	D&I	7.0
5位	HKS関西	6.15
6位	マインズ	5.78
7位	ブリッツ	5.5
8位	ガレージ福井	5.09
欠場	エスプリ	—

採点ポイントは、10点満点で評価。これはあくまで読者の読者のみんなの点数を平均したもので、ドリフト以外のパフォーマンスは考慮されていない。だから、最終ポイント集計では、この順位に変動があることも十分可能性あり! エスプリの欠場は、第3ステージのゼロヨンでのトラブルのため。



当日、会場のエビス東コースには、たくさんの読者が応援に駆けつけてくれた。みんなには審査員もお願いしてしまった。楽しかった? びっくりした?

ガレージ福井・横山耕治

MR2でチャレンジするが、ほとんどドリフト走行はできなかった。「うーん、アンダーが出ちゃってねえ。難しいな。ボクらはクルマを作る側だから。ポンネットのウニマークで勘弁してちょ。」